第２次　箱根町HOT21観光プラン基本計画（案）に対する意見書

提出者（必須）
・氏名　　柴山　信広 ・住所　　神奈川県　足柄下郡　箱根町 ・連絡先 ・提出者区分 □**町内に住所を有する者**　□町内に別荘を有する者　□町内で働く者 □町内で学ぶ者　□町内で事業を営む者　□町内で活動する者 □本町に納税義務を有する者 □パブリックコメント手続きに係る事案に利害関係を有する者

意見項目（注）	意見記入欄
「観光と先端ビジネス」の両輪による箱根の再創生が観光をも活性化し底上げする。 ※別資料１と２	**新たなビジネスと移住家族の長期居住決心へ** 箱根に根付く、先端を見据えた 新たな仕事、共生する技術研究関連の働く場の創出。 箱根内の複数地域が交流できる複合施設での地域一丸化。 「新たに住む。新たなビジネススタイルとリモートビジネス拠点。」そこから人口は増に。財政も改善され短年で公共施設や観光施設も充実し始める。国家の先端リズムに真っ先に乗る。世界は大きい。
「住みづらいと感じる箱根から住みたいと思える箱根に。」これはインバウンドの観光客が不満に思う一因。 ※別紙２	それぞれの地域に真の意味での交流がない。 高齢化する人の箱根的住民感情への改善。これは比較的小さな規模の旅館や旅館などの事業継承問題と大きく関わっています。子供が町を出る要因。 解決法：それぞれの地域に夜遅くまで開ている飲食市場複合型風呂併設施設を作りそれぞれの地元の交流を活性化し、息抜きの現場を標高が高いそれぞれの地域に指導していただきたい。コミニケーシィンと絆の育成。（湯本は比較的賑やか）先進諸国エコノミー外国人観光客の夜のエンジョイスペースをそれぞれに。電動小型タクシーなどで離れているところを近くに。個別に訪れる先進諸国エコノミー外国人は体験評価発信力は即時世界に発信拡散している。実態人口が少なく上の地域ほとんどの施設が夕方七時にはクローズ。（箱根を高低差で上中下で分けたもの）

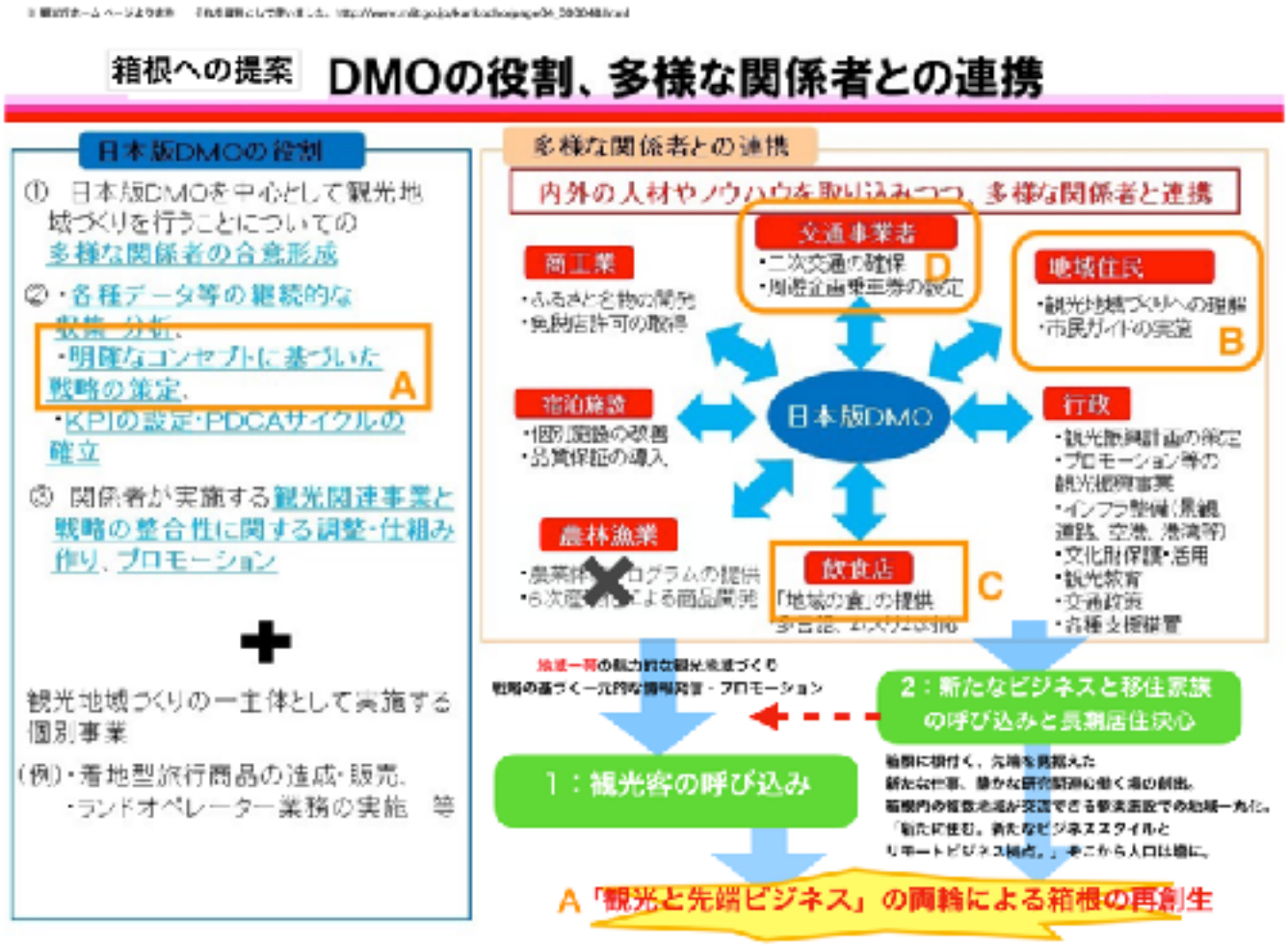
観光産業だけに頼らない腰の強く魅力ある街に。 ※別紙1	自然災害に影響される観光従事型ビジネスだけではなく、新たな自然環境応用ビジネスを誘致し街全体を活性化することで、短時間で観光の魅力を掘り起こし発信できるようになる。 スイス山岳地帯が時計産業で大発展したように、箱根町全体が共鳴するビジネスモデルを優遇するなどで全体の収益が上がる。また箱根の自然と温泉は先端企業誘致に適していると考えられる　(おおよそ一番と重複) 企業の取引先の柱は二つ以上でなければ危険というメソッドと同じ。
住民も観光客も町の温泉施設で触れ合うことで魅力を東京、神奈川にアウトバンドしたい。	旅行通や若者は観光する時に高価な観光施設ではなく公共施設を利用したい。箱根住民であれば、なおさらだと考える。住人が楽しみにしている町の温泉施設を閉鎖して欲しくない。そこが最後に残された町民の夕方のコミニケーションスペース。以前は企業側（ユネッサン森の湯）でも支援してくれていたが今は終了。 (おおよそ二番と重複)
今のHOT21ガイドラインを集約し、短くした理念を、町全体に伝えて理解,賛同、アクションに持って行きたい。その言葉が欲しいです。	日頃、みんなが思い出せるような凝縮した「理念」の言葉により人は動くことは企業も町も同じだと思います。Hot21ではなく共感共有賛同スピードとして残念ながら我々の努力も足りず、Cool21に向かっていると感じざる得ない現状の箱根を改善したい。

上の中で一と五番目の項目が重要だと私は考えています。
私が考える相性の良い研究型企業誘致先：時代はすぐに目の前です。
電気自転車、電気自動車、パワーアシストウエアーの研究開発。
走ることに関する科学と研究の常設。
先端的小型住居開発。寒冷地居住のリセット発信
太陽電池研究。遠隔医療研究。AI研究。IoT。
農作物、タネのVegetables研究
の研究などが挙げられます。全て観光と高齢化問題解決に直結すると考えます。

国立公園箱根で技術と自然の融合を目指せば、近代都市東京に近い大自然ということがエリア価値を一層ふやします。これから観光開発を考える上では以下のキーワードが経済効果を生み出すと考えます。デジタルネイチャーハコネです。※デジタルネイチャーは筑波大教授、落合陽一の哲学を引用したもの　それの逆のアプローチ　自然と技術研究学実施という意味にした。

ネイチャー＋デジタル ＝ 未来型国際観光地 Japan National Park HAKONE

別資料 1



※ 観光庁ホーム ページより抜粋　　それを資料として使いました。
http://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000048.html オレンジの印とアルファベットは筆者

別資料１-2

上記図表の私の書き込み部分の抜き出し文章と補足

A：観光コンセプトを全体的に考察しました。両輪がお互いを補います。
B：現在、私のような地区住民として、観光地域づくりの基本骨格は存在するが地元住民全員には届かず力がみなぎっていないと思う。
C：大箱根という環境、複雑な景観で最高標高住居エリア700mという条件下、日射時間が少なくても植物や野菜が育つ大学などとの共同研究開発が必要。そこから新たな食文化がメード イン ハコネとして観光が活性化する。
✖：農林漁業は住民としてあまり成長的存在はしていないと感じる。これからは紅葉する樹木への移行。家庭小規模農業の楽しみへの科学。少ない作物でも価値ある観光と生活へ。

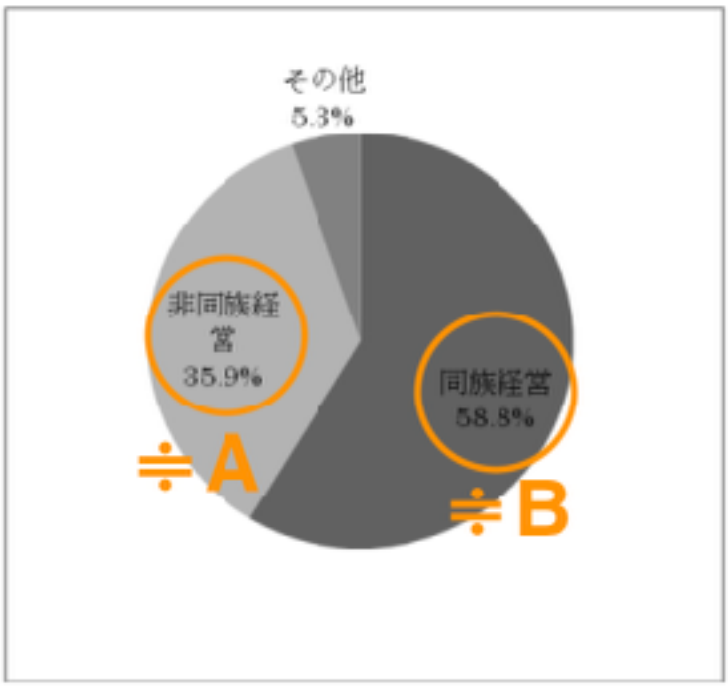
1は元資料そのまま
２は上にも記したが**「新たなビジネスと移住家族の長期居住決心へ」**へのガイドラインが欲しいと思います。

趣旨は箱根に根付く、先端を見据えた新たな仕事、自然と地域と共存する研究関連施設、小規模企業の働く場の創出。箱根内の複数地域が交流できる飲食複合施設での地域一丸化に向けての関与と順次創出。「新たに住む。新たなビジネススタイル。」と働き方改革を起点としたリモートビジネス拠点の箱根。そこから人口増につなげるということです。まだ魅力ポテンシャルは存在する。

今の成長を考える上では箱根の事業継承が困難だと思う根拠
今、箱根は人口減少、観光産業継承不可能の高齢化の一途をたどっている。

別資料２

下記図面は東京中央区のデータです。箱根より事業継承は積極的だと考えられるエリアです。そこから箱根のことを考えてみました。



	回答数	%
同族経営	677	58.8
非同族経営	414	35.9
その他	61	5.3
合計	1152	100.0

A:高齢化　　の問題は国も抱える問題ではあるが、現在箱根にも大きくのしかかっている。

B:小さな体力がない小さな施設では事業主が高齢化し、事業継承する上で困難になっている。

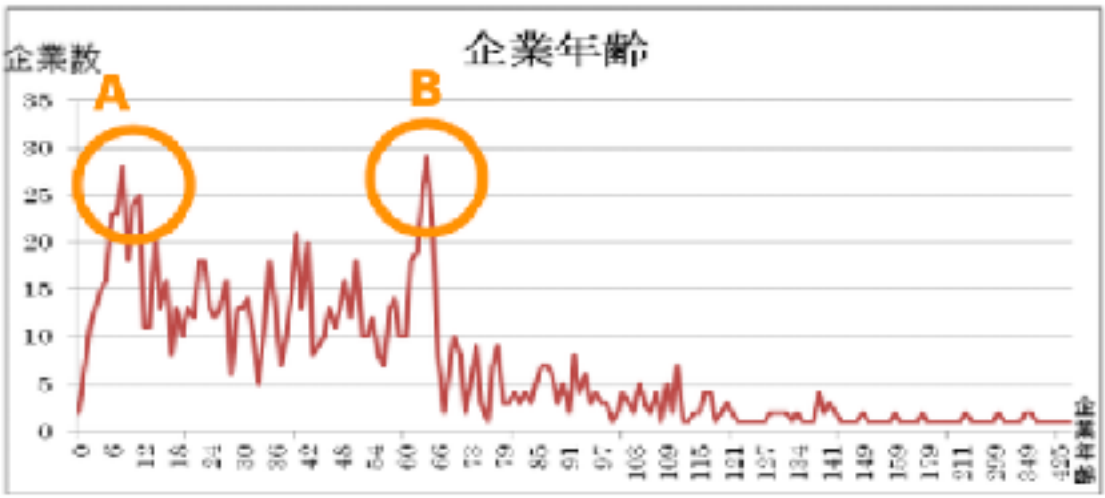
別資料２-１

事業継承は大きく二つにケースが分類されるが
1：子孫や親戚などのケース
2：全く新たに、気の合う人間が引き継ぐ。右図参照

小さな旅館や小型施設はクローズに追い込まれている。また箱根町を取り囲む外的環境や準拠を緩和し事業継承を多少でも促進して行きたい。

資料は”【経営形態】回答企業の６割近くが同族経営で、３割強の企業が非同族経営となっている。同族経営の割合は、従業員数２０名以下の小規模企業の割合とほぼ同じ結果となっている。”
企業年数を東京商工会議所中央支部より引用　オレンジの印は筆者

下記のBは現在の家族経営の小規模会社。このエリアは箱根の高齢化と共に深刻な部分。つまり事業は継続させたくても、引き継ぐ子供達は箱根を脱出している。であるならば解決できるのはAのエリアの若者層が起業をしなければ、観光を支える財政も影響する。
よって若い夫婦と赤ちゃん一家が楽しめて働ける箱根を目指すしかないとの所存です。



別資料２-２

”回答企業の企業年齢については、設立から *70* 年以内の企業が比較的 多い。とくに、設立から *60* 年～*66* 年の企業と、設立から６ 年～*12* 年の企業がいちばん多くなっている。しかし、設立から *66* 年た つと企業数は減少し始め、*115* 年以降になると平均５社にも満たなくな っている。このデータから、企業が各時代の環境変化に対応しながら長期存続を実現していくことが、いかに難しいかを示しているとも言える。” 企業年数を東京商工会議所中央支部より引用

オレンジの印は筆者

左図のように、たとえホテルや旅館業者が断続的に営みながら観光業資本の力で東京的観光産業の外部恩恵を考えても、マスで考えた時、このように多かれ少なかれ難しいし物言えぬ中小観光従事者情が苦悩する。新たなDMO的内部的魅力を打ち出さなければ近未来にさらに箱根住民票取得人口減少で財政困難が起るのは周知の事実です。今こそ箱根内部の未来を、と考えます。

よって箱根ではより事業の継続や起業の困難を乗り越えたい。若者を増やしたい。小さくてもよい、テクノロジーで牽引された、かっこいい箱根にしたい。箱根を前に進めたい。

※長野県では子供の人口が東京からの移住で増えている町も。世界から箱根の自然が技術と融合しアート的だと感じるようなものでないと生き残れない。自然環境と共に持続可能な町から街に。後発住民に対しての磁力を。以上、大変駆け足ではありますが、お役に立てば嬉しいです。　課で補足が必要であればご説明可能です。志をお受け取りいただければ幸いです。

ネイチャー＋デジタル ＝ 未来型国際観光地 Japan

提出先
〒250-0398　箱根町湯本256番地　企画観光部観光課
FAX 0460-85-6815
Email: web_kankou@town.hakone.kanagawa.jp

National Park HAKONE